第１７回精神保健福祉ボランティア

全国のつどい in 石川

あなたの一歩とわたしの一歩

～～ともに歩むまちづくり～～

金沢市　兼六園

小松市　那谷寺

小松市

小松市イメージキャラクター
カブッキー

小松市　木場潟より白山を望む

日　時　２０１７年 9月24日（日）～ 25日（月）

場　所　北陸粟津温泉　辻のや 花乃庄

主　催　石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会
第１７回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 石川実行委員会

後　援　石川県　小松市　石川県社会福祉協議会　小松市社会福祉協議会
社会福祉法人なごみの郷

目　　次

1　開催趣旨 …… 1

2　会場案内図 …… 2

3　プログラム …… 4

4　主催者挨拶 …… 7

5　祝辞 石川県知事　谷本　正憲 …… 8

6　歓迎の挨拶 小松市長　和田　愼司 …… 9

7　基調講演
「精神保健福祉ボランティアの存在意義とその未来
～居てもらわなくては困る人へ～」講師　北岡　和代 氏 …… 10

8　第１分科会　「ピアカンは僕らの癒しの場」 …… 12

9　第２分科会　「ボランティアが作業所を作ったら」 …… 13

10　第３分科会　「寄り添い、ともに楽しみ、学びあう」 …… 15

11　第４分科会　「自分を活かせるボランティア」 …… 20

12　第５分科会　「テーマのない、なんでもありの分科会」 …… 25

13　参加団体紹介 …… 27

14　参加者名簿 …… 41

15　（資料）社会福祉法人「なごみの郷」の紹介 …… 47

16　実行委員名簿 …… 49

開　催　趣　旨

精神保健福祉ボランティア全国のつどいは、１９９９年に神奈川で第１回が開かれて以来、全国に「精神保健福祉ボランティア精神の襷（たすき）」が引き継がれ、第１７回の今年は石川で開催されることになりました。

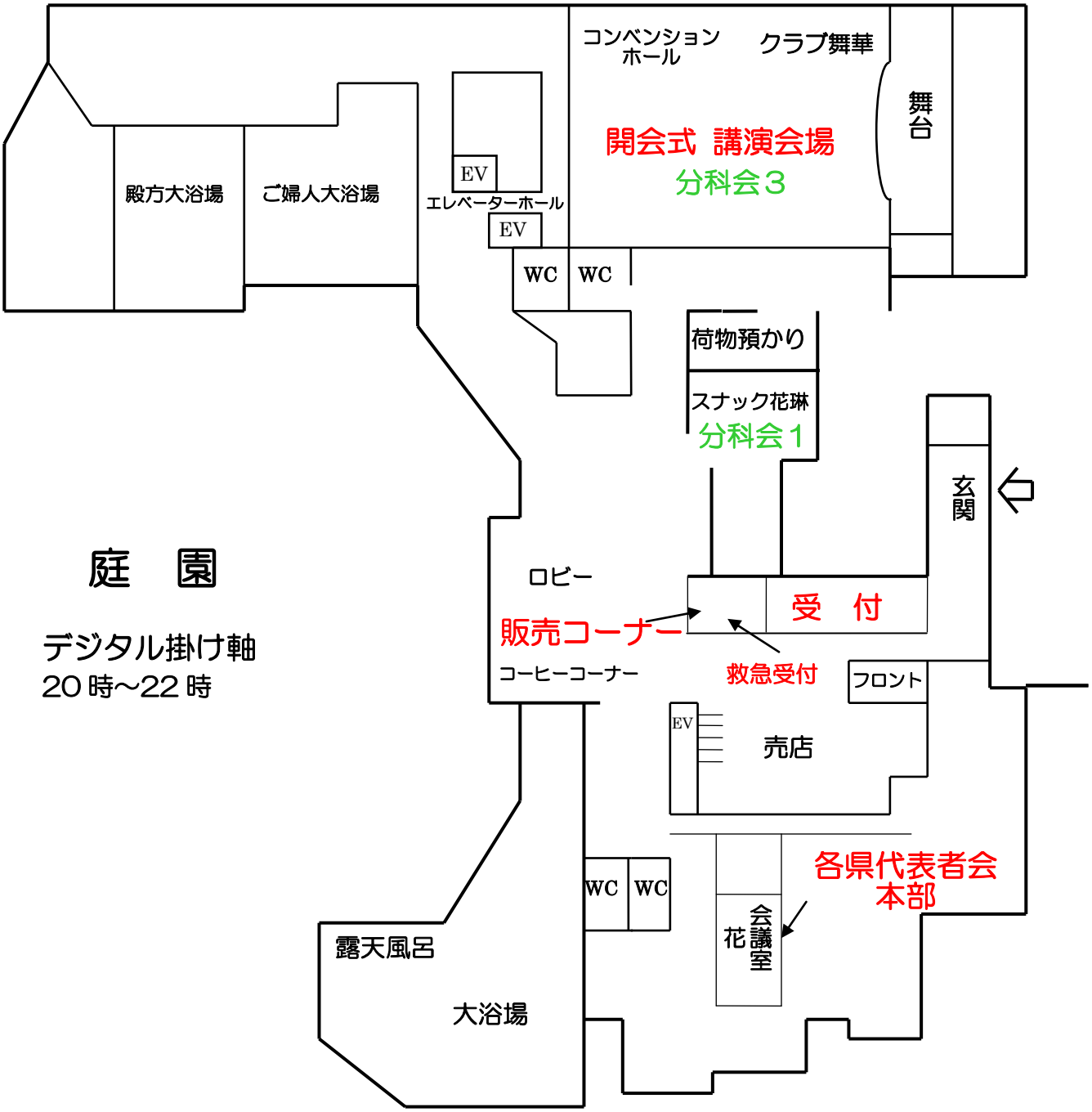
精神保健福祉ボランティアは、精神障がいがあっても地域で当たり前の暮らしをしていけるように、身近な相談相手でありたいと活動を続けてきました。当事者とのふれあいを通して病気を正しく理解し、住民に啓発し、地域に必要なサービスの社会資源づくりなど、多岐に及んだ活動を展開しています。

私たちは今、ボランティアは、「支える側」と「受ける側」に分かれるのでなく、「ともに歩む支援、支える側もまた支えられている」というとらえ方をしています。そして、一人ひとりが自分らしく活躍できる地域共生社会の実現を目指しています。

メインテーマに「あなたの一歩とわたしの一歩 ～ともに歩むまちづくり～」を掲げました。参加者が相互に活動の報告と情報交換を行い、研鑽と連携の場になれば幸いです。

会場案内図

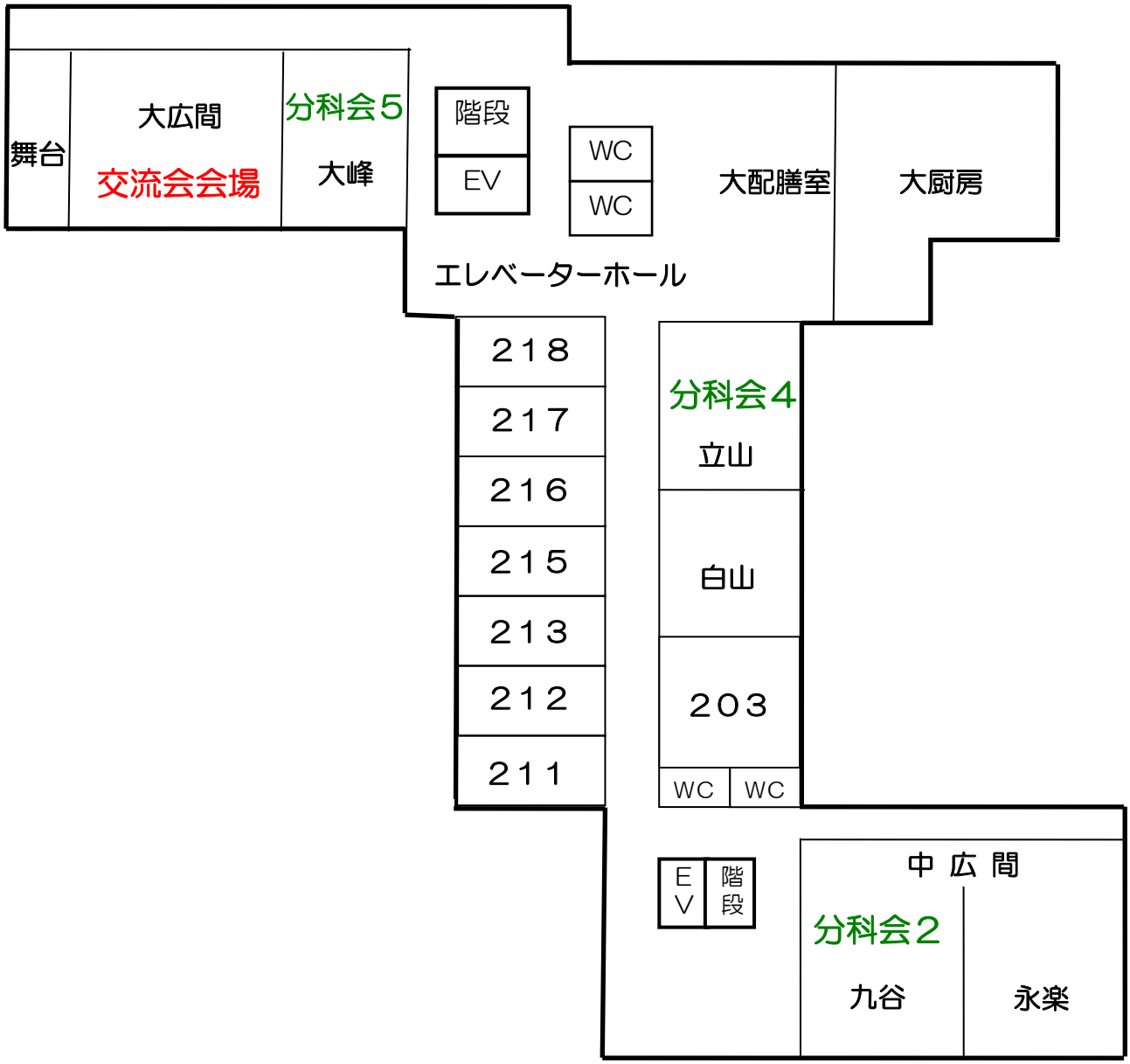
1F



デジタル掛け軸
20 時～22 時

2F

会場案内図


舞台
大広間
交流会会場
分科会５
大峰
階段
EV
WC
WC
大配膳室
大厨房
エレベーターホール
２１８
２１７
２１６
２１５
２１３
２１２
２１１
分科会４
立山
白山
２０３
WC
WC
E
V
階
段
中 広 間
分科会２
九谷
永楽

≪プログラム≫

☆　第１日目　　９月24日（日）

12時00分　　受付

12時50分　　オープニングセレモニー　　地元民謡会による「おっしょべ節」の唄と踊り

13時00分　　開会式

主催者挨拶　　実行委員長　荒田　稔
石川県メンタルヘルスボランティア協議会
会長　　三上　紀美恵

来賓祝辞　　石川県知事　　谷本　正憲 様
小松市長　　和田　愼司 様

来賓紹介　　石川県社会福祉協議会専務理事　　西　　和喜雄 様
小松市社会福祉協議会会長　　中田　豊司　様
石川県南加賀保健福祉センター所長　沼田　直子　様
石川県こころの健康センター所長　　角田　雅彦　様

13時20分　休憩・会場準備（10分）

13時30分　基調講演

演　題　「精神保健福祉ボランティアの存在意義とその未来像」
～居てもらわなくては困る人へ～

講　師　　金沢大学医薬保健研究域保健学系
教授（精神保健看護学）　北岡　和代 氏

14時45分　　休憩・移動（15分）

15時00分　分科会

第１分科会　「ピアカンは僕らの癒しの場」
～当事者からの発信～
会場　　１Ｆ　スナック花琳

第２分科会　「ボランティアが作業所を作ったら」
～特定非営利活動法人ＫＭＣの取り組み～
会場　　２Ｆ　中広間　九谷

第３分科会　「寄り添い、ともに楽しみ、学びあう」
～ 福井精神保健福祉ボランティア「クレヨン」～
会場　　１Ｆ　コンベンションホール

第４分科会　「自分を活かせるボランティア」
～小松能美メンタルヘルスボランティア友の会の活動から～
会場　　2Ｆ　中広間　立山

第５分科会　「テーマのない、なんでもありの分科会」
～参加者が話題提供者です～
会場　　2Ｆ　大広間　大峰

16時30分　　各部屋へ移動
各県の代表者会議（代表者は１Ｆ会議室「花」にお集まりください）

17時50分　　交流会開会　　会場　　2Ｆ 大広間
集合記念撮影
夕食、交流、アトラクションなど

19時50分　　次回開催地の愛知県へタスキ渡し

20時00分　　閉会

☆　第２日目　９月25日（月）

なごみの郷見学

１０時00分　　社会福祉法人なごみの郷見学　出発

お帰りのご案内

１ 出発案内

日　時	行　　程					
９/２５（月）	辻のや	花乃庄発	9時10分	⇒	ＪＲ小松駅着	9時30分
	辻のや	花乃庄発	9時40分	⇒	ＪＲ加賀温泉駅着	10時00分
	辻のや	花乃庄発	8時20分	⇒	ＪＲ小松空港着	9時00分
	辻のや	花乃庄発	10時00分	⇒	なごみの郷着	10時30分

２ 接続列車のご案内

富山・金沢方面へ	しらさぎ51号	小松駅発	９時45分
	普通電車	小松駅発	９時48分
名古屋方面へ	しらさぎ６号	加賀温泉駅発	10時13分
大阪方面へ	サンダーバード16号	加賀温泉駅発	10時19分
東京（羽田）へ	日本航空184便	小松空港発	９時35分
	全日空754便	小松空港発	10時15分

主催者あいさつ

第１７回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 石川の開催にあたって

実行委員長　　荒田　稔

第１７回精神保健福祉ボランティア全国のつどいは、1999 年の神奈川開催から今日までボランティア精神を襷(たすき)に託して、全国の仲間に引き継がれてきました。

精神保健福祉ボランティア活動は、精神障がいがあっても地域で安心して当たり前の暮らしをしていけるように、身近な相談相手になったり、施設の行事に参加したり、サロン、食事会などの交わりの機会をつくっています。これらの活動の経験・体験から、地域の人たちに正しい病気の理解と回復には人との交わりが必要であることを普及啓発しています。活動は、多岐に及んでいます。

福祉制度がいくら充実しても支援の行き届かない狭間がどうしても生じます。その狭間を埋めていくこともボランティアの大切な役割であります。「支える側」と「受ける側」に分かれることなく、一人ひとりが自分らしく生きていくことのできる地域共生社会(インクルージョン)の実現をともに歩みたいとの願いを込め、メインテーマに「あなたの一歩とわたしの一歩～ともに歩むまちづくり～」と掲げました。

ボランティア活動の「意義」と「未来のあり方」について共に研鑽ができれば幸いです。

ようこそ石川へ

石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会
会長　　三上　紀美恵

「第 17 回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 石川」に全国からたくさんの方々にご参加いただき、誠にありがとうございます。こころから歓迎いたします。

石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会が発足して、今年で１６年になろうとしています。しかし、その活動はとても活発とは言えません。そんな時に第 17 回全国のつどいを石川県で開催できないかという打診がありました。今、ここで少し無理をしてでもこの現状を変える必要があると思い、役員会で開催を決めました。

私たちは精神に障がいを抱えながらも地域で普通に暮らしたいという人たちと共に、地域に住む者として一緒に歩んで行きたいと願っています。家族でも、医療関係者でも、福祉の専門職でもない私たちができることは何か、みんなで考えて行きたいと思っています。

今年はちょうど、白山開山１３００年、そして来年はここ粟津温泉開湯１３００年に当たります。そして小松市では『石の文化』が日本遺産に認定され、今、小松市が注目を集めています。この全国のつどいを機会に石川県、そして小松市の魅力を少しでも知っていただければ幸いです。

祝　　辞

石川県知事　谷本　正憲

第１７回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 石川が、多くの皆様のご参加のもと盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地から、お集まりいただきました皆様を心から歓迎いたします。

精神保健福祉ボランティアの皆様におかれましては、日頃から精神障害のある方やそのご家族の身近な相談相手として、また、精神障害についての正しい理解の促進など、全国各地で熱心にボランティア活動に取り組まれていることに深く敬意を表します。

近年、ストレスによるうつ病や高齢化に伴う認知症の増加などもあり、精神障害はもはや特別なものでなくなっています。こうした状況を踏まえると、精神障害の有無にかかわらず住み慣れた地域で安心して生活できる社会の構築が重要となっています。

本県では「いしかわ障害者プラン」に基づき、福祉施設をはじめ関係機関と連携し、障害者福祉サービスの向上に努めているところですが、地域の中で生活するには住民理解が何よりも大切であり、その意味でボランティアとして常日頃から活動されている皆様は欠かせない存在となっています。

こうした中、「あなたの一歩とわたしの一歩～ともに歩むまちづくり～」をテーマに、全国各地から関係者の皆様が一堂に会し、互いの活動について情報交換を行うとともに、交流を深められることは誠に意義深く、本大会が実り多きものになりますことを期待しています。

また、県外からお越しの皆様方には、折角の機会でありますので、日本三名園の一つである兼六園や金沢城公園など加賀百万石の歴史や文化、今年開山１３００年を迎える霊峰白山や、世界農業遺産「能登の里山里海」をはじめとする豊かな自然や新鮮な海山の幸、さらには全国有数の温泉など、本県の多彩な魅力を存分にご堪能いただければ幸いです。

最後に、本大会のご成功と貴会の益々のご発展、ご参加の皆様方のご活躍とご健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。

歓迎のあいさつ

小松市長　和田　慎司

皆さま、「勧進帳」のまち小松に、ようこそいらっしゃいました。

「第 17 回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 石川」が、本日小松市で盛大に開催されますことを心から歓迎いたします。

本日ご参加の皆さまにおかれましては、日ごろより精神障がいのある方の良き理解者、身近な相談相手として全国各地で熱心に活動され、地域と障がいのある人をつなぐため日々ご尽力を賜り、深く敬意を表します。

小松市では現在、年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず、すべての人が安心して暮らすことができる「やさしいまち推進プラン」を策定し共生社会の実現を目指しています。

また、第5期こまつ障がい者プラン（障がい者計画・障がい福祉計画）に基づき、各種福祉サービスの充実や地域支援体制の構築など、ともに地域で暮らしていけるまちづくりをすすめています。

しかし、障がいのある方が地域でいきいきと暮らしていくためには、福祉サービスの充実や行政からの支援だけでなく、地域の方々との心のふれあい、交流が大切です。さりげなく寄り添い、一緒に時間を過ごし、お話しに耳を傾ける皆さまの存在が、どれほど精神に障がいのある方にとって、ありがたくまた癒されることか計り知れません。

このような中、地域で支える全国のボランティアの皆さまが、一堂に会され、お互いに学びあい、交流を深められますことは、誠に意義深く、本大会が実り多いものとなりますことをご期待申し上げます。

小松市は昨年、石の文化が日本遺産に認定され、今年は芭蕉の句で有名な那谷寺開創1300年、来年は粟津温泉開湯1300年と、大きな節目の年にあたります。先人達が大切に残してくださった文化が数多く残るまちですので、この機会に小松の魅力にふれていただければ幸いです。

最後に、皆さまの活動の輪が更に全国に広がりますことを祈念いたしまして、歓迎の言葉といたします。

基　調　講　演

精神保健福祉ボランティアの存在意義とその未来像

～ 居てもらわなくては困る人へ ～

講　　師　北岡　和代 氏

金沢大学医薬保健研究域保健学系 教授（精神保健看護学）

要旨

精神保健福祉ボランティアとは「精神障がい者が抱える生活上の問題を自分と関わりのある課題として捉え、その解決や支援という諸活動を通じて、精神障がい者と共に生活できるコミュニティづくりに参画できる人」（栄セツコ、1997）と言われています。その役割として

① 精神的な健康問題をもつ人たちと過ごし、良き時間を共有できる人になる。
② 精神的な健康問題をもつ人たちが抱える悩み等を聴き、相談相手となる。
③ 精神的な健康問題をもつ人たちに理解を示し、彼女、彼らを受け入れることができる凄い人になる。
④ 他の住民にそのことを伝え、凄い人を増やす。
⑤ ボランティア活動を通して自分を成長させ、健康で元気な人になる。

があると考えています。しかし、実際はどうなのでしょうか？

私自身もここ石川県において、なごみの郷の苦情解決第三者委員として定期的施設訪問活動、よつば会（精神的な健康問題をもつ人たちと繋がる会）、SUGAR - Japan を通してボランティア活動を実践してきています。興味あるところです。これらの疑問に対する回答を求め、科学的に調べて発表するのが研究です。大学の研究者としての立場から、探ってみました。

まず、その研究テーマについて、どこまで調べられているのかを把握するために、研究のデータベースによってネット検索しました。今回は「医中誌 Web」と言われているものを使いました。1977 年以降、国内で発行されている医学・歯学・薬学・看護学及び関連分野の学術雑誌、約 6,000 誌に掲載されている約 1,000 万件の論文から、探し出してくれます。該当する研究を探し出すために、キーワードを入れます。‘精神保健福祉ボランティア’というキーワードを入れて検索すると 9 件、‘精神保健ボランティア’では、

19 件、‘メンタルヘルスボランティア’では２件が出てきました。‘精神ボランティア’ではヒット無し、‘心のボランティア’では１件ヒットしましたが、筋ジストロフィーの人を対象とした研究でした。

基調講演においては、これらの研究論文を整理し、ボランティアの 5 つの役割に関して、何が立証されているのか・何が立証されていないのかについて、皆さまに紹介したいと考えています。それら日本の研究を紹介した後、地域の精神保健福祉サービスが最も進んでいると言われているイギリスでは、どのような研究が行われているのかもお伝えしたいと思います。

私の話を聴いていただき、皆さんの心の中に、精神保健福祉ボランティアの未来像について描いていただければ大変嬉しく思います。

講師プロフィール　石川県生まれ
金沢大学法文学部哲学科心理学専攻卒業
金沢大学医療技術短期大学部看護科卒業、看護師免許取得
日本赤十字社医療センター及び金沢医科大学病院勤務の後、
平成１２年～　石川県立看護大学　講師、助教授
平成１９年～　金沢医科大学看護学部　教授
平成２５年～　金沢大学医薬保健研究域保健学系 教授
博士（医学）

Memo

分　科　会

第１分科会　　ピアカンは僕らの癒しの場　～ 当事者からの発信 ～

話題提供者　　戸田　岳宏　（シュガージャパン リーダー）
司　会　者　　北岡　和代　（金沢大学医薬保健研究域保健学系教授）
記　録　者　　金谷　葉月　（社会福祉法人なごみの郷職員）

ピアカウンセリングの始まり

今から４年前、統合失調症に向き合って生きている数人のメンバーが、ロンドンで行われているピアカウンセリングをモデルとして始めた。例会では、当事者のことを理解し初回からずっと支え続けてくれている北岡先生の存在が大きい。

グループ名称とメンバー

SUGAR―JAPAN（シュガージャパン）は、サービス（S）ユーザー（U）グループ（G）アドバイザー（A）on　リカバリー（R）の頭文字をとって、グループの名前にした。

グループには、当事者の他に、精神科認定看護師や作業療法士、大学の看護学講師等の方が会員として加わり、みんな横並びの関係で話し合いがすすめられている。

例会は２ヶ月に１回、社会福祉法人「なごみの郷」を会場に行っている。ピア（仲間）のやりとりは、いらいらすることもなく、根気強く慰め合い自由討論会のようでもある。それぞれが自分の持っている力を発揮して、何となくうまく支えあっている。着地点はないけれど、みんなリフレッシュして毎回癒された感じで終われるのが嬉しい。

今日は後半で、シュガージャパンのいつもの活動を実際にやってみます。

今日のテーマは

「　　（当日、分科会会場で発表）　　」です。

☆ 最近の例会で取り上げたテーマには、以下のようなものがある。

「いかに自分たちが、理解されていないか」
「障がいをもちながら、健常者と付き合っていく大変さ」
「統合失調症と社会生活」
「社会で自分はどういう風に見られているか」
「統合失調症と共に生きている私たちの生きづらさ」　　etc

第２分科会　ボランティアが作業所を作ったら ～KMCの取り組みから～

話題提供者　　福森　隆子（特定非営利活動法人ＫＭＣ　代表理事）
司　会　者　　洞庭　昭彦（ひまわり友の会　会長）
記　録　者　　分校　聖子（たんぽぽの会　会長）

ＫＭＣとは　平成 12 年２月、金沢市の福祉健康センターが開催していた精神保健福祉ボランティア講座の修了生で結成された精神障がい者の支援を目的とするボランティア団体です。金沢メンタルヘルスボランティアクラブでは長いので、ＫＭＣを通称とし、特定非営利活動法人の名称として使用しています。わずか１０数名の会員は、それぞれ自立し、作業所の作業支援やレクレーションのボランティアをし、年に数回集合しては、利用者の方と料理交流会を重ねていました。そのころのＫＭＣのバイブルは、松浦幸子さん（※１）の『不思議なレストラン』でした。

なぜ作業所を作ることになったか？

「中古の空缶プレス機をあげるから、作業所を作ってみない？」と家族会のおかあさんから声をかけられたのが、発端です。決して安くない機械を、自腹を切って寄付してくださるおかあさんの心意気をむげにできませんでした。日々、座って内職作業を行う利用者にふれ、「この人たちは、もっと働ける。もっとお金をかせげる。」という何の根拠もない確信から、「はい」と手をあげてしまいました。

どうやって作業所を作るか？

平成 15 年、春、有志で作業所の設立準備に入りました。資本金は皆無です。小規模作業所運営補助金を石川県、金沢市からもらうために、社会的信用を得ること、任意団体でなく法人格を持つことを選択しました。思えば、ＮＰＯが流行りはじめ、最も取りやすく、ボランティアにふさわしいものと思われました。補助金をもらうために半年の実績も必要でした。動いたのは私たちだったけど、今思えば、本当に会員はじめ様々な人に助けてもらいました。

どんな作業所を作るか？～居場所づくり～

平成 16 年４月１日、現在の場所で開所した時、利用者はすべて、男性。名称は、「一人ひとりがそれぞれの働き方があり、誰もが働ける」、空缶のプレス作業をしていることから、**Canwork　キャンワーク**、としました。はじめ１時間立ちっぱなしの作業が、やっとだった利用者がみるみる体力をつけていくのはうれしかったです。できる人には、就労をめざしてもらい、ワークトレーニングにも何人も送り出しました。

作業所の日課には利用者の声を反映したいと思い、**ミーティング**の機会をたくさん設け、利用者が声を発する機会を作りました。今でも当時の利用者が名づけてくれたように、１時限を１クールと言います。当時の私たちの理想は、『べてるの家』（※2）でした。

社会経験の乏しい利用者に、色んな体験をしてもらいたくて、料理実習はじめ、金沢観光、バス旅行、など、**レクレーション**もたくさんしました。

「来るものは拒まず」が、私たちのポリシーで、支援学校を卒業した女性のために箱折り作業を加えました。**「1 人ひとりのニーズに向き合い」、支援する**ことが目標でした。

障害者自立支援法がやってきた！

平成１９年、キャンワークは利用者の意見も聞き、現状を維持するのに、最も近い地域生活支援事業Ⅲ型を選択しました。しかし、将来的に運営の安定を考えると、より１日の報酬額の高い就労Ｂ型事業所（※3）への移行を決断せざるを得ませんでした。時代の波は、「働いて高い賃金を支払うのが良い事業所」に動いていました。就労系の事業所に移行することで、国から障害者基盤整備事業の補助金、金沢市から障害者就労訓練設備等整備補助金を受け、ようやく平成２４年に餃子専門の飲食店「ちゃおず」を開業しました。

自立支援法は平成２５年に障害者総合支援法と名称を変え、ここ金沢市では様々な法人がＡ型事業所（※4）に参入してきました。その利用者の多くは、精神障がい者が利用し、Ｂ型事業所の存続を脅かす存在になっています。また、Ａ型とは名ばかりの事業所もあり、現在大きな問題と言えます。

キャンワーク、ＫＭＣの今、そしてこれから

キャンワークは、職員のがんばりもあり、どうにかやっています。しかし、不安要素も山積みです。キャンワークは開始以来１３年、随分変わってきました。KMC は、キャンワークの運営に腐心し、ボランティアとしては、いろいろなものを取りこぼしてきました、会員の高齢化や、会員を増やす努力など…。ただ、地域において精神障がい者を支援している目線は、設立当初のボランティアと変わらないと思っています。利用者から「ここはいいところや」と言われたり、数年ぶりに以前の利用者が訪ねてきたりすると、とてもうれしいです。

今の課題は、事業所の運営のなかで、どうやってボランティアらしさを維持するのか、ボランティア団体としてどう存続するのか、です。その課題にヒントをいただければ、幸いです。

※1　精神保健福祉士
　昭和 62 年　東京都調布市でクッキングハウス設立
　平成 17 年　障害者自立支援活動支援賞(リリー賞)受賞
　著書　『不思議なレストラン』、『続・不思議なレストラン』（教育史料会出版会）他
※2　昭和 59 年に設立された、北海道浦河にある精神障害等をかかえた当事者の活動拠点。
　理念「三度の飯よりミーティング」、「弱さの情報公開」、「弱さを絆に」等
※３　就労継続支援Ｂ型事業所
※４　就労継続支援Ａ型事業所
　障害者総合支援法における就労系障害福祉サービス事業所　通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に、就労の機会を提供するとともに、生産活動、その他の活動を通じてその知識及び能力の向上に必要な訓練を行う事業。Ａ型事業所は「雇用契約」を結び、最低賃金を保障する。

第３分科会　寄り添い、ともに楽しみ、学びあう

話題提供者　　出口かの子（精神保健福祉ボランティア「クレヨン」会長）
司　会　者　　桝谷真澄（「クレヨン」福井病院グループ）
　　紆屋恵子（「クレヨン」県立病院グループ）
記　録　者　　清水弘美（「クレヨン」県立病院グループ）

１ 精神保健福祉ボランティア「クレヨン」設立の時代的背景

昭和 62 年、精神障害に対する偏見が強く残っている風潮の中で、福井保健所内に地域精神保健業務連絡会という会が作られました。会が作られた趣旨は各方面の関係機関の英知を絞り、精神障害者の回復や社会復帰を阻んでいる要因を見つめ、現状を打開する良い方法を考えていこうというものでした。

その考え方のもとに作られたのが「ボランティアのためのやさしい精神保健講座」でした。精神科ボランティアの発想は全国的にもまだほとんどなく、当時多くの精神科病院では病院の内部を一般の人々に公開することも違和感を持っており、偏見の強い北陸においては至難の業だと思われていた中で、広く世間の一般の方々の精神障害への理解がいただければ意義のあることだと考え、平成２年「ボランティアのためのやさしい精神保健講座」を開始しました。

講座受講生の病院実習にあたり、病院側では事故が起きた時の責任の所在等々、職員の合意に向け何度も話し合いがなされ、二転三転しながら、まずは受け入れ事実を作っていこう、ということで実施できたことは忘れることができません。講座受講生は患者さんの人権に配慮し、秘密を守るという約束で、閉鎖的な病院に入っていきました。患者さんが安心して受講生と親しく談笑する姿を見てほっと安堵したものです。

その中で実習生から折角学んだことをこのままに終わらせたくない、という強い意見が出てきました。そして平成４年、この講座受講生の病院実習の経過を機に「クレヨンの会」を設立しました。

２ 「クレヨン憲章」

「人はみな素晴らしい個性・色を持っている。しかし、環境いかんによってはそれらが失われることがある。その素晴らしい色そのものを大切にした環境づくりを目指そう」そうという意味で「クレヨン」と名付けました。（1 人ひとりの持つ色が生かされてこそ社会が成り立つ）

「クレヨン」の活動内容

第１グループ「県立病院」
お茶（抹茶・煎茶）
ペン習字　書道　折り紙
文化祭　ディケア祭
音楽祭
クリスマスコンサート

受付話相手
月・火・水・木　９時～11 時

第２グループ「松原病院」
スポーツ　絵画　生花
お茶（抹茶）　園芸
スポーツ体操　ディケア祭

第３グループ「福井病院」
絵画　習字　俳句　民謡
お茶（抹茶）折紙　秋祭
お花見茶会　大人のマナー
英語教室　日本語教室
ストレッチ体操

第４グループ「福仁会病院」
絵画　お茶（抹茶・煎茶）
ペン習字　ディケア祭

第５グループ「高志福祉会」
スポーツ　お茶（抹茶）
野外活動　大人のマナー

第６グループ「三精病院」
絵画　書道

第７グループ「厚生病院」
お茶（抹茶）　絵画

クレヨン憲章

「クレヨン」とは、人はみな、すばらしい個性（色）をもっている。しかし環境いかんによっては失われることがある。そのすばらしい色そのものを大切にした環境づくりを目指そうという意味で「クレヨン」と名づけました。

定例学習会
月１回専門家を
お招きし精神保健に
関する学習

さわやかサロン
福井市社会福祉協議会
ボランティアルーム
ホッとできる場所作り
感謝のイメージへの心の
チャンネル切り替えの場

慌てず
焦らず
諦めず

信じて待つ、をモットーに

これからの社会、ボランティアは地域社会の支援者として位置づけされ、ますます社会に必要とされていくでしょう。「クレヨン」は一人ひとりを大切に、今後も感謝と謙虚さを持ち、心豊かな黒子役に徹して参りたいと思います。
そして共に生きる社会を目指します。

３ 「クレヨン」の基本的理念

活動の現場は病院のデイケアを主としています。その他、野外活動に一緒に参加することもあります。

○「専門家へのパイプ役に」

活動に入っている時、患者さんの悩みをほっとけないような時、例えば、服薬していない、また体調がおかしい時でも医師にどのように話せばよいのか等、また、少ない診療時間で思うように話せない等の時は「メモ用紙に書いていき、診療の前にすぐ手渡す」等の背中押しをしています。

ボランティアが何かをする、解決する、ということはありません。あくまでも黒子役です。又活動時、看護師さんにお話しすることもありますが、本人との信頼関係を失わないよう判らないように気を配っています。

その関わりの中でボランティアは当事者が患者としてではなく、心のハンディを持った社会生活者であるという認識を持つようになってきます。その障害者への理解はボランティアの経験を通じて地域の人たちに少しずつ広めていくことが出来ます。

ボランティアのさまざまな生活場面において、正しい障害者感を広く伝えていくことができるように、ボランティアは地域社会と関係機関〈障害者の社会参加の場〉のパイプ役というとても重要な役割を担っております。

家族
保健所
専門家
社協

へのパイプ役である

仕事のこと、自殺したい、眠れない、が多い

○活動理念

＊患者さんとの信頼関係があれば、時に患者さんを傷つけてしまう場面でも許されたりします。患者さんに教えられることも多々あります。（仲間としての姿勢を保つ大切さ）

＊訴えに耳を傾ける事の大切さ（傾聴・共感・受容、吸い取り紙になる。）

＊患者さんはいろいろな不安や悩みを持っています、それは両親の高齢化（身の回りの世話ができない）、金銭面の不安（管理ができない）、自分を理解して貰えない、薬の服用にたいする抵抗（薬の必要性を十分に理解していない、服用の勧めはボランティアの大事な役割である。）等多様です。まず患者さんの思いをそのまま受け止めてあげるようにしています。

＊患者さんの気持ちに寄り添うことを大切に。

聴き上手に努める。嬉しい時の話は嬉しい表情で、暗い話のときは暗い表情で話を聴く。

自分の思いを押し付けたり、患者の問題を解決してあげたりはいけない。
感謝と謙虚で心豊かな黒子役として、あくまでも専門家へのパイプ役に
徹していく。

〇サロンについて
（さわやかサロン）月第二木曜・第四火曜　　社会福祉協議会
（ボランティアルーム）
＊ホッとする憩の場、みんな仲間、情報支援の場でもある
＊参加メンバーは月２回のサロンは大切な場所
＊肩の力を抜いてなんでも話し合える
＊趣味などホッとできる場所や時間づくり
＊感謝のイメージへの心のチャンネル切り替え
共有する時間が楽しい。話題が様々で学ぶことばかりです。

〇定例学習会について
精神保健に関することを第一にしております。現在は発達障害を中心にしております。
・月１回、定例学習会とし開催、各病院医師にお願いしております。
福井県立病院、福井病院、松原病院、福仁会病院、三精病院、高志福祉会あゆみ
大切な患者さんへの理解を深めるため、またボランティア自身の向上を目指すということで、自己研鑽や自分を見つめることが必要です。常に正しい知識を学ぼうと月一回の定例学習会は専門家を招いて２６年続いています。

人間は誰もが普通の生活を送る権利があり、社会はそれを支える責任があるという
スウェーデンに生まれた福祉基本理念「ノーマライゼーション」、このノーマライ
ゼーション実現を目指し進めて参ります。

これからの社会、ボランティアは地域社会の支援者として位置づけされ、ますます
社会に必要とされていくでしょう。「クレヨン」は一人ひとりを大切に、今後も感
謝と謙虚さを持ち、心豊かな黒子役に徹して参りたいと思っています。
そして共に生きる社会を目指します。

慌てず、焦らず、諦めず、信じて待つ、をモットーに

第４分科会　　自分を活かせるボランティア

話題提供者	坂田　恵子	(小松能美メンボラ友の会　Ａグループ)
	井村　千里	(小松能美メンボラ友の会　Ｂグループ)
司　会　者	三上　紀美恵	(小松能美メンボラ友の会　会長)
記　録　者	東田　智子	(小松能美メンボラ友の会　Ａグループ)
	佐渡　稚春	(小松能美メンボラ友の会　Ｂグループ)

※小松能美メンタルヘルスボランティア友の会（略してメンボラ友の会）

メンボラ友の会について

☆誕生の経緯

「メンボラ友の会」は平成 16 年７月に設立されましたが、小松の精神保健福祉の歴史は平成５年に始まっております。当時、家族会運営の作業所の利用者が定員を超える状況となり、新たな作業所づくりが急務になっていました。様々な話合いの中で、それまでの家族会中心ではなく、市民参加の必要性が求められ、市民によるボランティア「くろゆり作業所を支える(以下支える会)」が発足しました。そして、その後毎年保健所が行った「メンタルヘルスボランティア育成講座」の修了者が、次々と５つの小グループを作り、各々の活動を行っていました。

平成 12 年に社会福祉法人なごみの郷が設立され、支える会と５グループ、そしてなごみの郷設立後に誕生した２グループの８つの小グループがそれぞれのグループの特徴を活かし、活動を続けていました。しかし同じような活動があったり、活動の日が重なったり、横の連携が取れなかったりと不都合が出て、何回も話し合いを重ねようやく現在の「メンボラ友の会」が誕生しました。

☆これまでの活動について

結成以前の活動をそのまま続けているものがありますし、新たに始めた活動もあります。Ａグループの市民病院病棟訪問は平成 16 年 8 月に当時の市民病院の精神科の看護師長さんから「病院に地域の風を入れたい」との強い要請があり始まったものです。

ほっとサロンは平成 21 年８月に、当時の会長の「人は人とふれあい、語り合い、つながっていくことで元気になる。人によって傷ついた心もまた、人とのつながりの中でこそ癒されていく」という思いでスタートしたものです。

現在の「メンボラ友の会」の活動を見やすくしたものが、次の「活動の内容」です。

活動内容

共に
楽しく

ボ
ラ
ン
ティ
ア

A　病院施設訪問グループ

☆病院や施設の利用者とのふれあい

◆小松市民病院
　南３病棟
　デイケアセンターりんず

◆セラピィ粟津

B　ふれあい交流グループ

☆なごみの郷利用者とのふれあい交流

◆お茶会　　◆バスハイク

◆味噌づくりの会

◆学びの会
　・絵手紙などの創作活動
　　など…

全体による活動

☆なごみ祭、春の日の食談会

☆講演会、研修会、施設見学

☆他団体との交流会

☆各種研究大会や研修会への参加

ほっとサロン

☆利用者・家族会・スタッフの
　皆さんとのふれあいの広場

D　メンバーシップ会員・団体

☆グループとしては活動しないが
　できる活動に参加

C　研修グループ

☆講演会　会員の研修や施設見学
　他の団体との交流の企画運営

活動目的

精神に障がいがある人たちを
正しく理解し、同じ市民として
ともに暮らしていけるよう
心にやさしい
街づくりを目指します。

年 会 費
個 人　　2,000 円
団 体　10,000 円

私たちは、「当事者に寄り添い、対等な関係でふれあいたい。そして地域の人たちにも精神障がいについて正しい理解をしていただきたい」という思いで活動を続けております。

「メンボラ友の会」の特徴は、①会費を集めています。（個人会員 2,000 円、団体会員 10,000 円）これは財源としても貴重ですが、ボランティアの原則の自発性、主体性を持って活動するために必要です。また、小松市、能美市より補助金もいただいています。②会員の個性や特技を活かしていくために、４つの活動の中から自分がしたい活動を選ぶことができます。病院・施設訪問グループ(A)、なごみの郷の利用者さんとのふれあい交流グループ(B)、研修・講演会などを計画・実施するグループ(C)、定期的な活動には参加できないが全体で行う活動、例えばなごみ祭や春の日の食談会になら参加できるというメンバーシップ会員(D)に大きく分かれています。D 会員も会を資金的に支えてくれる大切な存在となっています。

☆小松市民病院の精神科病棟訪問

これは、平成 16 年８月に当時の看護師長さんの強い思いで要請され始まりました。当時は精神科病棟へ一般の人がボランティアとして入るのは、医師側からの抵抗もあったようですが、私達は地道な活動を心がけ続けました。その結果、活動は定着し現在も続いています。

その後、退院促進事業などで社会的入院患者さんや短期長期の患者さんも極端に減少しているので、患者さんの参加人数も一桁になってしまいました。訪問は奇数月と夏まつりの８月、クリスマス会 12 月の年８回です。今年度からは精神科病棟だけでなく他病棟から高齢の患者さんも参加しての活動となりました。そのため内容をもっと親しみやすいものへと吟味する必要があると思っています。

☆介護福祉施設「セラピィ粟津」（デイサービス、グループホーム）訪問

これは、粟津神経サナトリウムの医師からの要請で始まった訪問活動で、メンボラ友の会の前身から引き継いでいます。年 10 回の訪問で、参加は６０代～９０代の利用者さん 20 名前後です。

（小松市民病院の病棟のみなさんからいただく）

活動内容は、紙芝居、アレンジフラワー、マジック、南京玉すだれ、絵てがみ、ちぎり絵、歌、手あそび、ミニコンサートなどです。これらの全ては、会員のそれぞれが得意分野で個性を活かすことで成り立っています。ここが私達の特筆すべき特徴と言えるのではないかと思います。

数年前のこと、小松市民病院訪問で「かあさんのうた」を皆で歌っていた時に、８０代の女性が今は亡きお母さんを思い出し、突然人目も憚らず号泣されました。又２０年以上の長期入院患者さんが絵てがみに「ねえさん元気か？」と書いたとたん、長年会えない家族を思い出して涙が止まらなくなったこともありました。そんな瞬間に出会えることは大変素晴らしいことです。

それは体験して初めて分かる心ふるえるような大きな感動です。

☆デイケアセンター「りんず」訪問

これは平成 19 年 5 月に、小松市民病院精神科のデイケアセンター「りんず」が開所した折、「調理実習ボランティア」を要請されて始まりました。

毎月一度 2 名が主婦の立場で参加しています。ちょっとした調理のこつや、余った材料でできるもう一品などアドバイスしています。利用者には何年か振りで包丁を使った喜びを感じたり、家庭的な団欒を味わえたりと、とても好評です。

今年度からは調理実習だけでなく、文化的な活動を通して社会に出ていくための幅広い力を身につけてほしいという希望があり、内容を検討しながらすすめています。

これら訪問活動で一番大切なことは、受け入れ先があるということです。

ボランティアの私達を長年にわたり受け入れている病院、施設の関係者の皆様に深く感謝しています。

課題は、会員それぞれ事情があり全く活動できない人や、年に一度しか活動しない人などで、コンスタントに活動しているのは１０数名程度で、今のところは何とか活動していますが、今後の後継者不足、高齢化などの問題は深刻です。仲間をもっと増やすにはどうすべきか、良いアイデアがありましたら是非アドバイスしていただきたいと思います。

（学びの会　絵手紙の作品）

☆なごみの利用者とふれあい交流活動

四季を通じて季節感を取り入れた催しを行っています。

１月　初釜　　２月　味噌作り　　６月　おはぎの会
９月　味噌開き　　１０月　バスハイク

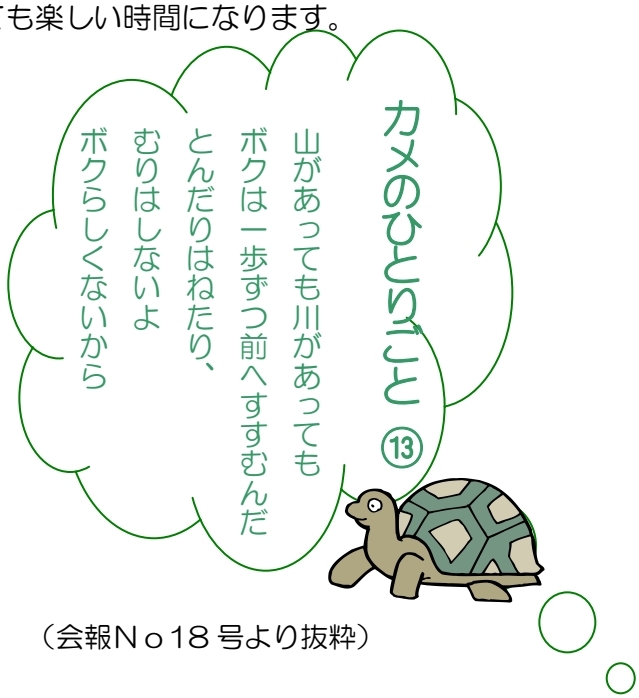
これはＢグループが企画して行っている活動です。利用者、職員、メンボラ友の会の会員が、お互いにコミュニケーションをとり、楽しんで参加できることを目標にしています。活動の大きな原動力となっているのは、例会という名の「事前の打ち合わせや振り返り」です。各人が自分の得意分野を発揮できる役割を選んで担当し本番を迎えます。
例会での雑談の中から思わぬ特技が見つかったりします。
そして例会では前回の振り返りを「次回への足がかり」にします。この地道な作業が会員同士の繋がりを深め、各々責任や意義を感じ、それが例会の安定した参加運営に結びついているのです。
一方で会員の高齢化と会員減少という課題もありますが、例会で一つ一つ丁寧に話し合うなかで絆を深め慶びのある活動が出来ていると思います。
更に社会福祉法人なごみの郷の、設立当初より毎年恒例の一大イベントが２つあります。
実行委員を立ち上げて、利用者、家族会、職員、メンボラ友の会が一丸となって作り上げるイベントです。今年で 19 回になりました。

☆ 春の日の食談会

雪の季節も終わりを告げ、春の訪れを風にも感ずる季節に、皆で一緒においしい料理を囲んで、ゲーム、余興などで楽しいひと時を過ごします。食事をしながらのふれあいによって皆の気持ちが一つになり、当日は何をしても楽しい時間になります。

☆ なごみ祭

地域と共に歩むなごみの郷を目標として、なごみの郷の開所と同時に始まりました。毎年６月の第１週の土曜日に行っています。地域の方々のたくさんの協賛と他の福祉施設などの出店のご協力もあり、大勢の方々が参加してくださいます。又、毎回、小松看護学校の若い力も私達には大助かりです。地域の普通の風を、気負わず、自然体で運ぶ気持ちで一緒の時間を楽しんでいます。



（会報Ｎｏ18 号より抜粋）

第５分科会「テーマのない、なんでもありの分科会」

話題提供者　　参加者全員
司　会　者　　吉田　裕美子（小松能美メンボラ友の会）
記　録　者　　番　　千恵子（小松能美メンボラ友の会）
　　冨樫　尚子　（小松能美メンボラ友の会）

　ボランティアを通して楽しいと感じたり、良かったと思ったりした経験はありますか？反対に、傷ついたり、辛い思いをした経験はありませんか？又、活動を通し困っていたり行き詰りを感じたりしていませんか？皆さんの経験や思いをお聞かせください。そんな時のアドバイスを聞かせてください。これからの活動に少しでもお役に立つ時間になったら幸いです。

内容）① 飛行ピニヨンを媒体として、皆さんの経験や思い、アドバイスを伺います。
　　＊飛行ピニヨンについては、当日のお楽しみ
　　② 小グループに分かれて経験や思いやアドバイスを紹介し、意見交換をします。

Memo

［ 栃 木 県 ］

団 体 名	栃木県精神保健福祉ボランティアの会 （こころの太陽とちの実）			代 表 者 氏　　名	大木　美智子
設 立 年	平成２５年	会員数	４９名	29 年度 予算額	なし（平成 29 年度より会費なしで活動してみる）

〔会　の　目　的〕
精神障がい者の社会福祉の向上に協力するとともに会員相互の親睦を図ること

[事　業　内　容]
委員会活動の充実を図り、その活動を通じて、2022 年開催予定の全国障害者スポーツ大会に向けての「卓球バレーを広める会」の実施や各団体で開催する養成講座等の後援。

[現 在 の 課 題]
１．ボランティア団体の平均年齢が 70 才以上のところもあり、高齢化問題
２．シートベルトの着用により、活動に参加できなくなった
３．他のボランティア活動をしている会員や仕事をしている会員が多く、「ピアカウンセリング」を行っている時になかなか参加できない
一番の課題は、代表が４つのボランティア団体の代表をしていること。（保護司会活動、学校薬剤師活動等、報告書作成や研修会参加に追われているのが現状です）

［ 群 馬 県 ］

団 体 名	精神保健福祉ボランティア たんぽぽの会			代 表 者 氏　　名	菅村　好基
設 立 年	平成８年	会員数	１９名 賛助会員２名	29 年度 予算額	405,185 円

〔会　の　目　的〕
会員相互の親睦を図り、精神障害者が地域でごく自然に当たり前に生活が出来るように支援する活動を行うことを主たる目的とする

[事　業　内　容]
・総会（年度初めに１回）　　・定例会（毎月第一土曜日）
・サロンたんぽぽの開催（毎週土曜日）
・上之原病院出張サロンとしての「サロンそよ風」（毎月第三月曜日）
・田中病院地域活動支援センターよしおかの料理教室（毎月第二木曜日）
・ボランティア養成講座（年１回　４日間）
・新春おたのしみ会（年１回）
・支援協力参加事業（榛名病院の季節の行事、あすなろ作業所の乾燥芋作り）など

[現 在 の 課 題]
おそらくどこの会でも同じ課題だと思われますが、ボランティアのなり手がいないこと。特に難しいと思われがちな精神保健福祉に関しては顕著です。
大切さを、やりがいや楽しさに結び付けられる方法はないものですかね。
あと１点は高齢化です。

[　埼 玉 県　]

団 体 名	心のボランティア　オードリー			代 表 者 氏　　名	磯目　融
設 立 年	平成１５年	会員数	１０名	29 年度 予算額	102,000 円
〔会　の　目　的〕 精神保健福祉について学び合い、支え合う地域づくりを目指す					
[事　業　内　容] ☆　狭山市ソーシャルクラブのお手伝い ☆　地域活動支援センターのお手伝い ☆　サロン活動（精神保健福祉分野の新しい情報を学習） ☆　ソーシャルクラブ在籍者と修了者の交流会 ☆　精神保健福祉分野の情報収集					
[現 在 の 課 題] ☆ メンタルヘルスリテラシ―教育の実践面の技術習得 ☆ 特別支援学級の授業支援					

[　神 奈 川 県　]

団体名	神奈川県精神保健ボランティア 連絡協議会			代 表 者 氏　　名	根岸　昭臣
設立年	平成元年 （１９８８年）	会員数	正グループ　８Ｇ 正個人　　９名 賛グループ　７Ｇ 賛個人　　４４名	29 年度 予算額	約 420,000 円
〔会　の　目　的〕 精神保健の向上を目指し、県内のボランティア間のつながりを深め、精神障害を伴う人々と共に生きる社会を作り出すことを目的とする					
[事　業　内　容] １　情報の収集と提供（精ボ連通信の発行） ２　誰でも集える場の提供・相談コーナー ３　研修会・交流会などの開催 ４　その他					
[現在の課題] 精ボ連の今後についての検討					

［　福 井 県　］

団 体 名	精神保健福祉ボランティア クレヨン			代 表 者 氏　　名	出口　かの子
設 立 年	平成４年	会員数	６５名	29 年度 予算額	450,000 円
[会 の 目 的] 「心病む人の人権を守り、偏見と差別のない心豊かな街づくり」を推進するため、関係病院、福井健康福祉センター、施設、福井市社会福祉協議会などから、指導、助言をいただきながら活動している					
[事 業 内 容] 月一回の定例学習会を軸に、福井県立病院、こころの医療センター、松原病院、福井病院、福仁会病院、三精病院、高志福祉会「あゆみ」、月 2 回のさわやかサロン等で活動					
[現 在 の 課 題] ・ボランティアメンバーの高齢化　　・活動可能人数の減少 ・患者さんの高齢化に伴う課題の変化					

［　福 井 県　］

団 体 名	精神保健福祉ボランティア すぎなの会			代 表 者 氏　　名	橋川　洋
設 立 年	平成５年	会員数	３５名	29 年度 予算額	433,336 円
〔会　の　目　的〕 地域で精神障害者及びその家族の支援					
[事　業　内　容] ・精神障害者の社会参加の推進 ・各種精神保健福祉活動の支援 ・精神保健福祉に関する知識の習得と普及					
[現 在 の 課 題] 会員の高齢化					

［　福 井 県　］

団 体 名	精神保健福祉ボランティア みちくさの会			代 表 者 氏　　名	田中　幾久代
設 立 年	平成５年	会員数	１４名	29 年度 予算額	280,000 円

〔会　の　目　的〕

地域で精神障がい者およびその家族を支援する

“長い人生、先を急ぐばかりでなく、路肩の千草を眺めつつみちくさするのも楽しいものです”をモットーとしたボランティアです

[事　業　内　容]

・地域活動支援センター「やすらぎ」の活動支援
・みちくさサロンの開催　月２回
・スポーツ交流会（コロコロゴルフ大会）年２回
・メンバーさんとの楽しいランチ年２回　　・月１回の連絡会
・研修旅行、勉強会の開催　会報「みちくさ」の発行　・家族会との交流
・地域における精神保健の啓発活動

[現 在 の 課 題]

会の結成から２４年が経ち、会員の高齢化が進んでいるのが一番の課題です

［　福 井 県　］

団 体 名	心の健康ボランティアグループ ほのぼの会			代 表 者 氏　　名	定政　則子
設 立 年	平成１１年	会員数	２１名	29 年度 予算額	272,000 円

〔会　の　目　的〕

心の健康が大事な現代に、活動を通して当事者及び家族を支援することを目的にボランティア活動を行います

[事　業　内　容]

１．連絡会の開催(月１回)
２．メンバーさんとの交流
　・ふれあいサロン(毎週水曜日開催)　・交流会を計画（バス旅行　クリスマス会など）
　・地域活動支援センターでの交流（習字、お花）
３．学習会
　・精神保健、ボランティア活動に関する知識の習得、自己研鑽に努める
４．他のボランティア団体との交流会　　５．広報活動
６．その他　社会福祉法人（芦山会）への協力

[現 在 の 課 題]

設立から１８年目なので、現在の会員は６０代、７０代になっています。若い方の加入者を求めています。

[　岐 阜 県　]

団体名	岐阜県精神保健福祉ボランティア連絡協議会			代 表 者 氏　　名	徳満　治
設立年	平成１３年	会員数	約５０名	29 年度 予算額	年会費各団体 5,000 円他 賛助会員、助成金で運営

〔会　の　目　的〕
・地域の精神保健福祉ボランティア団体の相互の繋がりのための情報交換を図る
・心病む方々と共に交流を図る
・精神保健福祉関係機関（病院、施設、行政等)、地域の他団体と繋がり、病気の理解の啓発普及活動を図る

[事　業　内　容]
主な活動内容年 2 回岐阜県の委託事業として「知ってもらいたい心の病」講演会、企画会議、平成 14 年から実施し、今年で 30 回目、参加者 50 名～170 名位

[現　在　の　課　題]
新しい会員の募集、新しき企画を考案中

[　静 岡 県　]

団 体 名	ＮＰＯ法人 ジョイントサークルかたくり			代 表 者 氏　　名	橋本　弘子
設 立 年	平成１７年	会員数	３７名	29 年度 予算額	168,000 円

〔会　の　目　的〕
精神障がい者の自立を支援すると共に、ネットワークの輪を広げ、広く精神保健福祉の普及・啓発活動を市民レベルで展開する

[事　業　内　容]
・市社協・生活支援センター主催のサロン運営に協力すると共に、かたくり主催のサロン（おしゃべりサロン）も年２回開催し、休日の居場所を提供
・月１回の定例会と活動の報告やお知らせを載せた会報を発行
・作業所での作業手伝いや各種行事に参加・協力

[現 在 の 課 題]
会員数は多数だが、実際活動できる人は１０人くらい。会員の高齢化に伴い、活動できる人が限られてしまう。

[　静 岡 県　]

団 体 名	菊川市精神保健福祉ボランティア あしたばの会			代 表 者 氏　　名	西原　鈴代
設 立 年	平成１２年	会員数	１３名	29 年度 予算額	256,274 円

[会 の 目 的]
地域社会における精神障がい者との交流を通して精神障がい者を理解するとともに、その理解の促進のための活動を図り、もって精神障がい者の福祉の向上に寄与することを目的とする。

[事 業 内 容]
（１）研修会の開催
（２）精神保健福祉に関する普及啓発活動
（３）関係機関及び団体への協力
（４）その他本会の目的を達成するために必要な事業

[現 在 の 課 題]
・会員数の減少
・会員の高齢化

[　愛 知 県　]

団 体 名	愛知県精神保健福祉連絡協議会 （こころのボランティア愛知）			代 表 者 氏　　名	浅井　博子
設 立 年	平成１６年	会員数	１７団体	29 年度 予算額	57,000 円

[会 の 目 的]
精神保健福祉の向上を目指し、県民の心の健康増進及び精神に障がいのある方の自立と社会参加を支援するとともに精神保健福祉ボランティアグループの交流と理解を深め、ボランティア活動の充実と発展を図ること

[事　業　内　容]
総会 1 回、代表者会議 1 回、役委員会 5 回～6 回
交流会 2 回、研修会 1 回、地域支援活動 4 回～5 回
会報 2 回

[現 在 の 課 題]
・各団体代表者の高齢化に伴い、活動が衰退傾向にあり、連絡協議会からの脱退が増え始めた。
・今までの事業内容すべて、役員が企画運営し、会場も固定していた。遠方の団体は参加しにくいため、愛知県全体のブロック化を検討。

[　島 根 県　]

団 体 名	精神保健福祉ボランティア うさぎの会			代 表 者 氏　　名	山崎　一功
設 立 年	平成１１年	会員数	２１名	29 年度 予算額	100,000 円

〔会　の　目　的〕
人にやさしく安心して暮らせる地域づくり「この町で支え合って生きてゆく」という人の輪を広げていくことを目指し、活動を通じ、自分の中にある人と人のつながりを大切にし、周りの人にやさしくできる自分を取り戻す。自分探しを目的にしています。

[事　業　内　容]
・毎月第 3 月曜日、第 4 木曜日、第 4 土曜日に各施設を訪問してレクリエーション、ゲーム、軽スポーツ、料理教室をしている
・施設の祭りなどイベントのお手伝い、当事者会との忘年会、日帰り旅行
・研修会、定例会、会員交流会、会報の発行、地域の他ボランティア団体との交流
・その他、施設や行政から要請のある取り組み

[現 在 の 課 題]
・現会員の高齢化、新規会員が集まりにくい
・活動が一部の人に偏っている
・会の活動の地域に対するアピール(活動紹介、新規会員募集)の方法

[　徳 島 県　]

団体名	徳島県精神保健福祉ボランティア 連絡協議会			代 表 者 氏　　名	耕地　弘
設立年	平成１６年	会員数	１４グループ	29 年度 予算額	498,000 円

〔会　の　目　的〕
精神保健福祉の向上を目指し、県内のボランティア団体間のつながりを深め、精神障がいを伴う人々とともに生きる社会づくりを目的とする

[事　業　内　容]
・定例会・・奇数月に実施し、各グループの活動状況等の発表により、現状と問題点につき意見交換を行い、今後の活動の広がりと発展に生かす
・講演会・・年３回講師を招き、ボランティアとしての知識や心構えを身につける
・視察研修・・年１回施設の視察研修を実施し、後懇親会で親睦を深める
・全国大会に参加・・全国レベルの大会に参加し視野を広める

[現在の課題]
予算面で助成金の減少により、活動の範囲が狭まりつつある

[　愛 媛 県　]

団 体 名	愛媛県精神保健ボランティア連絡協議会			代表者 氏　名	渡部　嘉津彦
設 立 年	平成１０年	会員数	４２１名 （１９グループ）	29年度 予算額	152,000円

[会 の 目 的]
この会は県民全てに精神保健福祉に対する理解と活動への参加を促し、併せて県内の精神保健ボランティアグループの連絡調整並びに相互交流と資質向上を図ることを目的とする

[事 業 内 容]
1　精神保健ボランティア活動振興のための連絡調整及び情報提供
2　研修会・交流会の開催
3　その他目的達成のために必要な事業

[現 在 の 課 題]
1　様々な法整備が行われ、精神障がい者の就労場所が増えてきている。一般就労への道も広がって来た。ボランティアが手弁当で支援していた作業所から、法人運営の事業所に変わった。ボランティアの在り方も変化しており、独自の活動を模索している
2　高齢化に伴って、退会する会員が増えている中で、新規加入者が少ないため、会員数が毎年減ってきている。また、活動休止のグループもあり、グループ数も減少している
3　県連の運営資金が少ないため、大きな事業が出来ない。会員数減で予算規模も縮小している

[　愛 媛 県　]

団 体 名	鬼北町精神保健ボランティア グループ　つつじ			代表者 氏　名	浦田　典子
設 立 年	平成１７年	会員数	２８名	29年度 予算額	320,000円

〔会　の　目　的〕
①心の健康についての知識を深める　　②精神障がい者の社会参加を進める
③地域住民と共に心の健康について理解を深める
以上3項目を目的として、学習、実践、親睦等の活動を進める

[事　業　内　容]
①地域の小規模作業所わかば、ＮＰＯ法人Ｂ型事業所などの支援活動
②年間行事(新年会、花見、七夕、クリスマス、スポーツ等)を主催している
③機関紙発行。研修会や交流会参加
④活動資金調達を兼ねリサイクル活動(アルミ缶、古紙、段ボールなど)

[現 在 の 課 題]
①事業所（支援対象）の規模の縮小化や通所者と家族の高齢化
②会員の高齢化

[　高 知 県　]

団体名	精神保健ボランティア ほっとはあと			代表者 氏名	福井　和子
設立年	(平成８年) １９９６年	会員数	ほっとくらぶ　３０名 ほっとはあと　４５名	29 年度 予算額	357,223 円
[会の目的] 精神障害者及び家族について、認識を深め、その福祉向上と自立支援、こころの健康に寄与し、会員相互の親睦を図ること					
[事業　内　容] ほっとクラブのメンバーさんと共に、毎月ティ―タイム、なごみサロンルームを開催。毎年シーズンごとにクッキング、ハイキング、クリスマス会、ソフトバレーボール大会（各病院、作業所より１５０名余り参加、第２２回となる。各奇数月、偶数月の学習会、役員会、会報発行（№.１４２号発行)。全国大会、他作業所行事の参加など					
[現在の課題] 会員の高齢化、新入メンバーの減少。　ほっとくらぶメンバーさんの悩みを共に悩み、やすらぎの時間も持ちたいと努力しております。					

[　高　知　県　]

団 体 名	Ｄｏネットワーク			代 表 者 氏　　名	牧野　秀男
設 立 年	平成１２年	会員数	２０名	29 年度 予算額	293,000 円
[会 の 目 的] 精神障害者共同作業所「由菜の里」を積極的に支援するとともに、各種福祉活動に参加し、福祉の向上と住みよいまちづくりに努める					
[事 業 内 容] ①当事者との交流・レクリエーション事業（日帰り旅行、ミニ運動会、花見など)、スポーツ交流 ②啓発活動　四万十町障害者自立支援協議会と共催で、四万十ふくふくまつり開催 ③ボランティア活動視察研修及び交流					
[現 在 の 課 題] ①会員の固定化 ②事務局の担い手がいない					

[　石 川 県　]

団 体 名	石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会			代 表 者 氏　　名	三上　紀美惠
設 立 年	平成１３年	会員数	１６４名	29 年度 予算額	50,273 円

[会 の 目 的]
精神保健福祉の向上を目指し、県内の精神保健福祉ボランティア間のつながりを深め、精神障害を伴う人びとと共に生きる社会を創り出すことを目的とする

[事 業 内 容]
・精神保健福祉ボランティア相互の情報交換
・精神保健福祉ボランティアの資質向上
・地域住民への啓発活動
・関係団体機関への協力　　・その他

[現 在 の 課 題]
・高齢化に伴う会員の減少
・会員の減少のよる活動費の減少（活動が限られる）
・交通が不便なため、会合等に時間がかかる（3 時間かかる地域がある）

[　石 川 県　]

団 体 名	メンタルヘルスボランティア コスモスの会			代 表 者 氏　　名	山岸　登起子
設 立 年	平成８年	会員数	３４名	29 年度 予算額	100,000 円

〔会　の　目　的〕
会員の仲間作りと障害者を理解し、交流を深め、自分自身の資質向上に努める

[事　業　内　容]
・月一回の茶道指導　・グランドゴルフ交流会　　・リンゴ狩り
・新年交歓会　　・桜祭り出店　　・美術展出店　　等

[現 在 の 課 題]
活動資金を得ること

［　石 川 県　］

団 体 名	メンタルヘルスボランティア ふたば友の会			代 表 者 氏　　名	柿本　利子
設 立 年	平成１０年	会員数	１３名	29 年度 予算額	70,651 円

[会 の 目 的]
地域の精神保健の向上と地域で精神障害者を支援する

[事 業 内 容]
・精神障害者の社会参加の支援　・ワークショップふたば作業所の支援
・精神保健推進のための研修会　・精神保健推進を通し、行政や団体に協力する
・ボランティア活動に関すること

[現 在 の 課 題]
会員が一人でも多く入ってほしいと願っています

［　石 川 県　］

団 体 名	メンタルヘルスボランティア 花の会			代 表 者 氏　　名	倉田　尚子
設 立 年	平成６年	会員数	３４名	29 年度 予算額	202,569 円

[会 の 目 的]
・会員自身のこころの健康づくりを考える
・精神障がい者との交流を通して障がい者の正しい理解を増やす
・精神障がい者の社会参加を支援する

[事 業 内 容]
・定例会　年６回　手芸の会　年６回（バザー作品作り）
・能登総合病院精神センター作業療法支援（毎週　水　木　金　第２火曜日）
・リフレッシュカフェの運営（月１回）
・障がい福祉サービス事業所「ゆうの丘」との交流
・各種女性団体の行事参画

[現 在 の 課 題]
・会員の高齢化、新会員の募集と育成
・支援施設が精神障がい者の作業所から、３障がいの福祉サービス事業所となってからの関わりが少なくなってしまったこと

[　石 川 県　]

団体名	メンタルヘルスボランティア ハートの会			代表者 氏　名	杉本　外美恵
設立年	平成９年	会員数	１９名	29 年度 予算額	126,886 円
〔会　の　目　的〕 地域で生活する精神障害者の方と交流を持ったり、活動を通して支援をすることを目的とする					
[事　業　内　容] ・精神障害者の社会参加促進支援 ・精神障害者支援事業所（なぎさ工房リヴ）への活動 ・会員の知識習得やそれらの地域社会への普及活動					
[現在の課題] ・発足から２０年が経ち、会員の高齢化による会員数の減少が現在の課題です					

[　石 川 県　]

団体名	ひまわり友の会			代　表　者 氏　　名	洞庭　昭彦
設立年	平成６年	会員数	１５名	29 年度 予算額	15,000 円
〔会　の　目　的〕 ・指定就労継続支援Ｂ型事業所「ひまわり」の支援 ・知識の習得・普及並びに目的達成に必要な活動					
[事　業　内　容] ・事業所「ひまわり」の作業手伝い ・通所者・職員との親睦交流及び地域への啓発 ・知識習得のための講習会					
[現在の課題] 会員の高齢化による会員減少（発足時　40 名強）					

[　石 川 県　]

団体名	特定非営利活動法人　ＫＭＣ			代表者 氏　名	福森　隆子
設立年	平成１２ （平成１６年）	会員数	１２名	29 年度 予算額	34,000,000 円 （主として福祉サービス事業の収入）
〔会　の　目　的〕 精神障害に関係する施設への支援協力活動を通じ、精神障害者の地域における自立を支援し、また、不特定多数の市民に対して、精神障害者への理解を啓発し、障害者とよき隣人として助け合える地域社会の輪を広げていくこと					
[事　業　内　容] 障害福祉サービス事業（生活支援センターキャンワーク、店舗事業ちゃおず）の運営					
[現在の課題] ボランティアとして、地域社会への働きかけが出来ていない					

[　石 川 県　]

団体名	メンボラ金沢ひだまりの会			代表者 氏　名	山本　静子
設立年	平成２２年	会員数	２０名	29 年度 予算額	105,000 円
〔会　の　目　的〕 精神の障害に伴って起きている様々な問題について理解を深め合い、障害のある人とともに地域で生活し、ごく自然に助け合うことを目的とする					
[事　業　内　容] ・8 月を除いて毎月第 3 木曜日に、金沢市学生のまち市民交流館でこころの居場所を開催する ・同じく 8 月を除いて定例会を開催。5 月は総会を兼ねる					
[現在の課題] こころの居場所の運営方法等について(人数が多かったり、判断が難しかったり)は次の定例会で相談して進めているので問題はない					

[　石 川 県　]

団体名	メンタルヘルスボランティア たんぽぽの会			代表者 氏　名	分校　聖子
設立年	平成９年	会員数	２２名	29 年度 予算額	238,000 円

〔会　の　目　的〕
地域の精神保健福祉の向上と支援を目指す
（精神障がい者の社会参加への支援）

[事　業　内　容]
・就労支援事業所：作業ボランティア　交流会　教育講座参加
・病院ボランティア：デイケアルームプログラム参加　交流会　バザー支援
・高齢者施設：入浴後の整髪補助　傾聴

[現在の課題]
設立 20 周年を経て、「地域サポーターとの交流」「事業内容の更なる継続」「会員募集」

[　石 川 県　]

団 体 名	小松能美メンタルヘルス ボランティア　友の会			代表者 氏　名	三上　紀美惠
設 立 年	平成１６年	会員数	７５名 3 団体	29 年度 予算額	537,968 円

〔会　の　目　的〕
小松能美地区住民の精神保健福祉、メンタルヘルスへの理解と意識の向上に関しての活動、地域まちづくりを目的とする

[事　業　内　容]
・役員会(年 6 回)　・総会・講演会(年 1 回)　・会報年 2 回発行
・訪問活動　市民病院精神科病棟（年 8 回)、高齢者（認知症）施設（年 10 回）市民病院デイケアセンター（年 12 回）
・なごみの郷利用者との交流（バスハイク、おはぎの会、味噌づくり、味噌開き、初釜など）
・学びの会（絵手紙の会、しゃべろうさ、学ぼうさ）
・ほっとサロンの開催（月 1 回　第 3 土曜日）
・実行委員会方式での行事企画（なごみ祭、春の日の食談会）

[現 在 の 課 題]
・会員の高齢化、活動可能な会員の減少
・新規会員が集まりにくい。新規会員の定着数が低い

（資 料）

社会福祉法人　なごみの郷

なごみの郷正面玄関

なごみの郷の理念

なごみの郷は「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道を歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切にし、「一人ひとりが夢と希望を持って生きること」を目指して医療・行政機関等との緊密な連携のもとに「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

～基本方針～

- 人の輪、こころの和を大切にしたサービスに努めます。
- 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます。

なごみの郷　設立の経緯

なごみの郷は平成 12 年 4 月に「地域であたりまえに暮らしたい」と思っている精神に障害を持つ方の願いを実現するために生まれた施設です。石川県内でも初の試みとなる住民参加型の施設は木の香りに包まれて、集う人がいやされる「郷」でありたいとの願いが込められています。

現在、就労支援・生活支援・居住支援・相談支援の 4 つのサービスを柱に障害のある方の夢を叶えるために様々な事業を展開しています。

～ 就労支援 ～

●就労支援センターつばさ（就労移行支援事業・就労継続支援Ｂ型事業）

菓子製造・喫茶・厨房等のバラエティー豊かな作業を通して働く能力を伸ばし一人一人の夢と希望を叶えることができるよう支援をしています。

私たちが作っています！

お客様の、「おいしい！」の一言が励みです！

喫茶

お弁当盛り付け

●能美地域活動センターはまかぜ（就労継続支援Ｂ型事業・地域活動支援事業）

印刷、施設外就労：お風呂清掃、内職などの作業を安心してできるよう支援し、創作・余暇活動、日々の相談などを通して、地域生活の活動を支援しています。

・地域に出向き働く「施設外就労」で作業づくりを進めています！

地域の特別養護老人ホームの入浴場清掃を行っています。

印刷：年賀状・名刺・ポチ袋

内職：梱包、箱詰め、ビス袋詰め

～ 地域交流室・地域交流センターしらさぎ ～

障がいのある人やその家族の方々の地域生活支援や地域の方との交流の場です。

素敵な絵手紙を描きました！

詩吟の会

～ 居住支援 ～

●グループホームなごみ・弥生荘（共同生活援助事業）

いってらっしゃ～い

おかえり～

みんなで盛り付けて、楽しくタご飯！

～ 相談支援 ～

●相談支援センター　なごみ/はまかぜ（一般相談・特定相談・障害児相談）

障害のある人が地域で安心して暮らせるように、日常生活の悩み・不安に対する相談、福祉サービス等の相談情報提供を行っています。

～ 生活支援 ～

●地域活動センターくろゆり（自立訓練・生活介護・地域活動事業）

ゆったりとした時間を大切に、日頃の活動を通して安心して普通の生活が送れるよう支援をしています。

楽しい小旅行！

小松能美メンタルヘルスボランティア友の会の方と一緒にエコキャップ運動をしています。『自分たちのやっていることが、世の中の役に立てると嬉しい』と話しています。

●ホームヘルプステーションなごみ（居宅介護支援事業）

地域で安心して生活を送って頂けるように、ご自宅に訪問し調理、買い物、清掃、日常生活上の支援を行っています。

私たちがお手伝いします。

社会福祉法人なごみの郷

http://www.nagomi-no-sato.com

・就労支援センターつばさ
グループホームなごみ ・ 弥生荘
ホームヘルプステーションなごみ
相談支援センターなごみ
〒923-0851 石川県小松市北浅井町り 123 番地
TEL(0761)23-7232 / FAX(0761)23-7284

・地域活動センターくろゆり
〒923-0863 石川県小松市不動島町甲 22

・能美地域活動センターはまかぜ
相談支援センターはまかぜ
〒929－0105 石川県能美市中ノ江町と 104-1

第１７回精神保健福祉ボランティア全国のつどい in 石川

実行委員・作業部会名簿（五十音順）

☆実行委員長

荒田　稔（メンボラ友の会）

※小松能美メンタルヘルスボランティア友の会（略してメンボラ友の会）

☆実行委員

柿本　利子　（メンタルヘルスボランティアふたば友の会）
杉本　外美恵（メンタルヘルスボランティアハートの会）
洞庭　昭彦　（ひまわり友の会）
半田　良枝　（メンタルヘルスボランティア花の会）
福森　隆子　（ＮＰＯ法人ＫＭＣ）
分校　聖子　（メンタルヘルスボランティアたんぽぽの会）
三上　紀美恵（メンボラ友の会）

☆作業部会（◎はリーダー）

企画部会

◎浅井　俊子（メンボラ友の会）　井村　千里（メンボラ友の会）
打越　賢一（メンボラ友の会）　川畑真智子（メンボラ友の会）
佐渡　稚春（メンボラ友の会）　中島　捷純（メンボラ友の会）

総務部会

坂田　恵子（メンボラ友の会）　東田　智子（メンボラ友の会）
◎西野　純枝（メンボラ友の会）　吉田裕美子（メンボラ友の会）

渉外部会

◎三上　紀美恵（メンボラ友の会）

Memo

「第 17 回精神保健福祉ボランティア
全国のつどい in 石川」 要綱

発行者　実行委員長　荒田　稔
発行日　平成 29 年 9 月 24 日
印　刷　社会福祉法人なごみの郷
能美地域活動センターはまかぜ

夏は勝手に日焼けして
便箋をかいてりぼりにするけれど、
海は便箋を取り上げて、
針陽は便箋を慰めて、
そして、カモリの時刻のはかなさに、
ただ耳は、波の音に落かされていく・・・・
Summer time

絵・文　のはらむし ぱった